

飛驒圏域 各医療機関の2025年に向けた対応方針【①今後の方向性】

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
1	変更	高山赤十字病院	高山市	【現状、特徴】 飛驒圏域唯一の三次救急医療機関であり、高度急性期及び急性期機能は強化・維持していくとともに、回復期及び慢性期機能は他病院と役割分担を図りながら、地域医療に貢献する。 【課題】 ・急性期治療後の受皿となる後方支援施設(介護・福祉含)が乏しく、高齢・独居で在宅退院も困難な方が多い地域である。 病床機能について、院内完結型と地域完結型を模索しており、地域医療機関との役割分担が必要だと考えており、高山市を中心に関係医療機関と協議を行う。 ・当院付帯施設に介護老人保健施設を有しているが経営状況も厳しい状況が続いている。 ・病院および老健施設の建物の老朽化が著しく、新病院建設は喫緊の課題である。現在、地域有識者との協議会を設置し、新病院建設に向け検討を行っている。 ・医師、看護師等の人材の安定確保が課題である。 当院付帯施設に介護老人保健施設を有しており、その下支えをしているが、経営状況も厳しい状況が続いている。 建物の老朽化が著しく、新病院建設は喫緊の課題である。 今年度、地域有識者との協議会を設置し、新病院建設に向け具体的な検討を行う予定である。	・高度急性期及び急性期機能を中心とした機能 ・救急、周産期、小児、がん医療などの政策医療に係る機能 ・地域医療及びへき地医療支援、災害拠点病院に係る機能	○	実施済み		○			これまで救命救急センター16床のみを高度急性期機能と区分していたが、周産期医療を担う病棟については、飛驒地域の周産期母子医療センターであり、分娩から新生児入院を扱う最も多くの割合を占める病棟であることから、高度急性期機能として区分することとした
2		岐阜県厚生農業協同組合連合会 飛驒医療センター 久美愛厚生病院	高山市	【現状、特徴】 ○救急告示病院、第二種感染症指定医療機関、へき地医療拠点病院、及び地域災害拠点病院の各指定を受け、飛驒医療圏域の中核病院として医療の提供をしています。特に、循環器内科分野、消化器外科分野においては、充実した医療を提供しています。また、ヘリポートを敷地内に常設しているため、高度治療を行う病院との連携も可能です。 ○訪問看護ステーションおよび一般急性期病床から転換した療養病床(11月より)において、積極的治療が終了した患者に対する体制を整備しています。 ○飛驒医療圏域で唯一のPET-CTを整備しており、がん診療においても大きな役割を担っています。 ○保健予防活動である各種検診等を広域な飛驒医療圏全域で実施しています。 【課題】 ○医師確保 常勤医師減少と後任医師が不足しているなか、地域の現状やニーズ、要望を把握し、公的医療機関としての役割を踏まえつつ、それに応じた医療提供体制を継続すること。	新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたが、改正感染症法を踏まえ、地域の感染症病床と結核病床を有する医療機関として、機能維持と診療の充実が責務であると認識しています。当院の強みである健診事業の充実、急性期から回復期、慢性期を経た在宅医療までの「地域完結型」の医療を支えることで、地域住民に安心で安全な医療を提供します。 また、地域の救急医療を担う紹介受診重点医療機関として、近隣の医療機関との連携強化を図る必要があります。	実施済み	実施済み	実施済み	実施済み		令和5年11月に、医療療養病床57床とする病床再編、分娩の廃止を行いました。また、併せて急性期機能については縮小(緩和ケア病棟は廃止、一般病棟にて対応)しました。冬の感染症や循環器系疾患の増加、凍結・積雪による外傷疾患の増加による病床の不足が懸念されますが、回復期機能病床との連携により対応する予定です。 また、緩和ケアを必要とするがん患者についてはフレキシブルに対応し、訪問看護ステーションとの連携も図ることで、患者のニーズに沿った医療を提供します。	
3		社団医療法人 古川病院	飛驒市	【現状、特徴】 飛驒市、飛驒地域の血液透析患者さんの受入れ、リハビリステーションが可能な慢性期病床と考えています。 【課題】 介護療養病床の廃止に伴う変更について考慮中です。	介護療養型医療施設から介護医療院に転換準備中です。		○					介護療養型医療施設から介護医療院に転換準備中です。 医療療養病床17床⇒20床 介護病床38床⇒35床

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
4	変更	国民健康保険飛騨市民病院	飛騨市	【現状、特徴】 飛騨市神岡町及び高山市上宝町及び奥飛騨温泉郷を含めた高原郷地域は、飛騨圏域の中でも突出して高齢化が進んでいます。高原郷地域における医療機関のうち、病院は当院のみで、プライマリケアから急性期、回復期、慢性期機能さらには在宅医療、慢性疾患のケアの役割まで担っている。高齢者にとって高山市街地や富山市など遠方の病院への通院は負担が大きく、必要性がますます高まっている。 【課題】 医療圏域の人口減が年200人程度のペースで進んでおり、医療需要の縮小が目前まで迫り、更に働き手不足が顕著となっているため病院の縮小をしていかなければならない。	プライマリケアから急性期、回復期、慢性期機能さらには在宅医療、慢性疾患のケアの役割まで担ってが、働き手不足が顕著となっているため病院の縮小をしていかなければならない。	○	○					①急性期から回復期への転換 ②1病棟化による病床数の見直し
5	変更	下呂市立金山病院	下呂市	【現状、特徴】 山間へき地の拠点病院として、これまで急性期から慢性期までをカバーしながら救急医療、へき地医療に重点をおきつつ、小児医療や総合医療も行ってきた。また、地域包括システムを早期に構築し、既にピークを迎えている地域医療の高齢化にも対応している。 【課題】 医師をはじめとする全ての職種で慢性的な職員不足が進行する中、抜本的な対策がとれず厳しい経営状況が続いている。限られた医療資源を最大限に活用するため、病院機能の選択と集中、関連施設との更なる連携が求められている。	病床機能の変更と1病棟の閉鎖により回復期へ医療資源を集中し、救急医療のひっ迫する圏域内外の三次救急医療機関の転院搬送の受け皿になるとともに、在宅医療と介護連携を拡充し、地域医療の更なる充実に貢献していく。	実施済み	○		○			①一般病棟(急性期)→一般病棟(回復期) 療養病棟(回復期)→療養病棟(慢性期) ②一般病棟(50床)→一般病棟(50床) 療養病棟(49床)→廃止 ④県立下呂温泉病院との連携により、当院の療養病棟患者を同院へ転院
6		岐阜県立下呂温泉病院	下呂市	【現状、特徴】 ・地域の中核病院、「へき地医療の拠点病院」として生活の場の医療を県立病院の立場から創設し、地域住民及び県民から信頼され、必要とされる病院づくりを目指している。 ・大規模地震災害時においても診療機能を維持・確保するために地下免震構造を導入している。 ・ヘリポートを整備し、救急受入時間の短縮やドクターヘリによる高度急性期病院への転院搬送が可能である。 【課題】 ・医師確保対策を充実するとともに、県立病院としての役割及び機能を継続しつつ、地域の医療ニーズに応える必要がある。 ・人口減少、少子高齢化に伴う患者ニーズの変革に対応するため、飛騨圏域全体として地域住民、行政、医療関係者等による合意形成をしたうえで、それぞれの医療機関の役割分担等を検討していく必要がある。	・へき地中核病院として、現状の医療体制の維持・継続及び不採算・特殊部門に係る医療の提供を行うとともに、急性期医療の提供と地域包括ケア病棟、回復期病棟及び療養病棟を有効活用して在宅復帰に向けた支援を実施する。 ・飛騨圏域は、広大な面積を有するにもかかわらず医療機関数が少ないことから、都市部のように医療機関ごとで機能を特化し、機能の分化・連携を強化する医療提供体制の構築は困難であるため、当院の取組みと併せて限られた医療資源を有効活用できるように、近隣の医療機関との役割分担の明確化と連携強化を図っていく。	実施済み	実施済み					①少子高齢化等が著しい下呂地域における医療需要に応えることが可能となるよう、令和5年8月1日に地域包括ケア病棟の一部(38床)を療養病床へ転床 ②新病院建設時に255床から206床に減床

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
7		ナチュラルクリニック21	高山市	【現状、特徴】 アトピー性皮膚炎のステロイドを使用しない入院治療に特化しており全国から入院してきている。地域においては肺炎、心不全、肺炎等の急性期入院を受け入れている。 【課題】 今後も当院の特徴であるアトピー性皮膚炎の治療に重点を置き発展させて行きたい。地域医療においては診断精度を高めたい。	科学的エビデンスに基づいたアトピー性皮膚炎の療養を発展させ医療の先進性に寄与したい。						○	アトピー性皮膚炎の療養を発展させ医療の先進性に寄与したい
8		光華眼科医院	高山市	【現状、特徴】 特にありません。 【課題】 特にありません。	白内障手術を高齢者に向け粛々としていきます。						○	小規模の眼科医院ですので、入院施設はありますが、主に遠方の方向けの施設の為、現状のままで良いと思います。
9		アルプスベルクリニック	高山市	【現状、特徴】 当院では、周産期医療のプロフェッショナルとして、すべての社員が協力し合い、すべての患者様に対して最新の知識、最大の安全性、最善の倫理観をもって、常に優しく誠実に診療にあたり、社会に広く信頼され、人々の健康と幸せに大きく貢献ができる様、真摯に研鑽と努力を続けてきました。 ◆診療実績 月平均分娩数＝32.0件（2022年1月～6月実績） 【課題】 特になし	分娩を継続していき、地域の周産期医療を支えていきます。						○	周産期医療機関であり、特段見直しを必要としていないため。
10		医療法人下呂温泉溪泉会 黒木医院	下呂市	【現状、特徴】 病床休止状態 【課題】 スタッフ確保困難	人口減少により入院病床の役割は無くなりつつある						○	いざという時の後方施設として維持
11		村瀬眼科クリニック	下呂市	【現状、特徴】 下呂市は眼科医療を受けれる施設は少ないです。このため当院では地域の皆様に貢献できるよう、眼科医療全般を行っております。 【課題】 重度の眼科疾患は紹介が必要となりますが、遠方への紹介となるのが課題です。	今後も地域の皆様に貢献できるように眼科医療全般を行っていきます。						○	下呂市は眼科医療を受けれる施設は少ないため
12	変更	下呂市立小坂診療所	下呂市	【現状、特徴】 下呂市北部地域(旧小坂町)の唯一の医療機関であり、老人保健施設を併設し、令和6年4月1日より療養病床14床を介護医療院に転換し医療と介護を併合した施設となっています。小坂地域の高齢化率は47.9%(R6.10末(昨年度より0.7増))となり、市内一高い高齢化地域のかかりつけ医という役割を果たしています。 【課題】 医師確保が課題となっています。 自治医大卒業医師を派遣いただき診療が成り立っています。そのため、地域のかかりつけ医ではありますが、かかりつけ医が数年おきに異動する現状にあります。	地域のかかりつけ医として、主体的に在宅医療に取り組む					○		療養病床14床については、令和6年4月1日から介護医療院に転換しました。